

平成 20 年 7 月 29 日
物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
委員長 北原和夫

第 39 回国際物理オリンピック (IPhO 2008) ベトナム大会
日本代表団参加成績のお知らせ

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会 (委員長: 北原和夫 (国際基督教大学)) は、
第 39 回国際物理オリンピック (会期: 2008 年 7 月 20~29 日 開催国/都市: ベトナム/ハノイ)
に生徒 5 名と引率者からなる日本代表団を派遣し、下記の参加成績を得ましたのでお知らせします。

記

- ◆ 会 期 : 2008 年 7 月 20 日 ~ 29 日 (10 日間)
- ◆ 開催国/都市 : ベトナム / ハノイ市
- ◆ 参加国数/人数 : 82 カ国・地域 / 370 人
- ◆ 日本代表生徒氏名及び結果 :
 - 金メダル 村下 湧音 (むらしたゆうと) 灘高等学校(兵庫県) 3 年
[2006,07,08 年 3 年連続参加、2007 年金メダルを獲得]
 - 銀メダル 松元 叡一 (まつもとえいいち) 筑波大学附属駒場高等学校(東京都) 3 年
[2007 年国際情報オリンピック参加、銅メダルを獲得]
 - 銅メダル 吉田 周平 (よしだしゅうへい) 広島大学附属福山高等学校(広島県) 3 年
 - 入 賞 赤堀 将太郎 (あかほりしょうたろう) 洛南高等学校(京都府) 3 年
 - 入 賞 松久 勝彦 (まつひさかつひこ) 東海高等学校(愛知県) 3 年

<問い合わせ先>

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会事務局
東京都千代田区北の丸公園 2 番 1 号
財団法人日本科学技術振興財団内 担当 谷本
TEL : 03-3212-8518 FAX : 03-3212-7790
E-Mail : physchal@jsf.or.jp
ホームページ <http://www.phys-challenge.jp>

第 39 回国際物理オリンピック (IPhO 2008) 概要

会 期： 2008年7月20日 (日) ~7月29日 (火) 10日間

開催地/会場： ベトナム社会主義共和国/ハノイ教育大学

Hanoi National University of Education

IPhO2008ホームページ： <http://ipho2008.hnue.edu.vn/>

日本代表団の日程：

7月 19日 (土)	結団式
20日 (日)	成田発・ベトナム着・大会登録
21日 (月)	開会式・エキスカーション
22日 (火)	理論問題試験
23日 (水)	エキスカーション
24日 (木)	実験問題試験・エキスカーション
25日 (金)	エキスカーション
26日 (土)	エキスカーション
27日 (日)	フリータイム
28日 (月)	閉会式・フェアウェルパーティー
29日 (火)	ベトナム発
30日 (水)	成田着・文部科学省帰国報告

参加国数/参加者数： 82カ国・地域 / 370名

メダル配分率： 金メダル 12%、銀メダル 13%、銅メダル 21%、入賞 24%

第 39 回国際物理オリンピック (IPhO 2008) 日本代表団 名簿

日本代表 (50音順)

氏名	ふりがな	在学学校 (所在地)	学年
赤堀 将太郎	あかほり しょうたろう	洛南高等学校 (京都府)	3年生
松久 勝彦	まつひさ かつひこ	東海高等学校 (愛知県)	3年生
松元 叡一	まつもと えいいち	筑波大学附属駒場高等学校 (東京都)	3年生
◎村下 湧音	むらした ゆうと	灘高等学校 (兵庫県)	3年生
吉田 周平	よしだ しゅうへい	広島大学附属福山高等学校 (広島県)	3年生

◎：キャプテン

引率役員

氏名	参加形態	所属
原田 勲	リーダー	岡山大学大学院自然科学研究科
杉山 忠男	サブリーダー	河合塾
北原 和夫	オブザーバー	国際基督教大学
田中 忠芳	オブザーバー	松本歯科大学物理学研究室
並木 雅俊	オブザーバー	高千穂大学
長谷川 修司	オブザーバー	東京大学大学院理学系研究科
光岡 薫	オブザーバー	産業技術総合研究所

派遣生徒及び同行役員のコメント

代表生徒のコメント：

村下 湧音 さん 灘高等学校(兵庫県) 3年

僕にとって3度目にして最後の IPhO で金メダルをとり、日本チームに貢献できたことが大変嬉しいです。これからは後輩たちにこの経験を伝えて、日本チームに貢献していきたいです。後輩に金メダルを獲らせます。

松元 叡一 さん 筑波大学附属駒場高等学校(東京都) 3年

銀メダルを獲ることができて、とても嬉しいです。これからも頑張っていきたいと思います。

吉田 周平 さん 広島大学附属福山高等学校(広島県) 3年

理論試験の出来が悪かったので、銅メダルの知らせを聞いてとても驚きました。本当に嬉しいです。

赤堀 将太郎 さん 洛南高等学校(京都府) 3年

僕としてはチョット失敗です。やはりメダルを獲って帰りたいかったです。

松久 勝彦 さん 東海高等学校(愛知県) 3年

大会に参加できて大変良い経験ができました。もっと精進しないといけないことがわかったので、そうしたいと思います。

同行役員のコメント：

日本代表団リーダー 原田 勲/岡山大学大学院自然科学研究科教授

今回の理論問題は日本チームにとって大変難しく苦戦したが、結果的に金メダル1、銀メダル1、銅メダル1、奨励賞2と「全員入賞」というすばらしい結果を得ることができ、リーダーとしてこれ以上の喜びはありません。がんばってくれた日本代表たちに敬意を表するとともに、私たちを支えてくださった文部科学省をはじめとする多くの方々に御礼を申し上げます。

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会委員長 北原 和夫/国際基督教大学教授

理論問題が新しい傾向だったので、選手は苦戦をしたように思います。聞いてみると、他の国の選手も同じように苦戦していたようです。しかし、(オリンピックだけでなく)どのような課題にも挑戦できる基礎的な論理力、持久力、表現力を鍛えることが、教育の基本であるとの思いを新たにしました。選手諸君、よく頑張ってくれました。

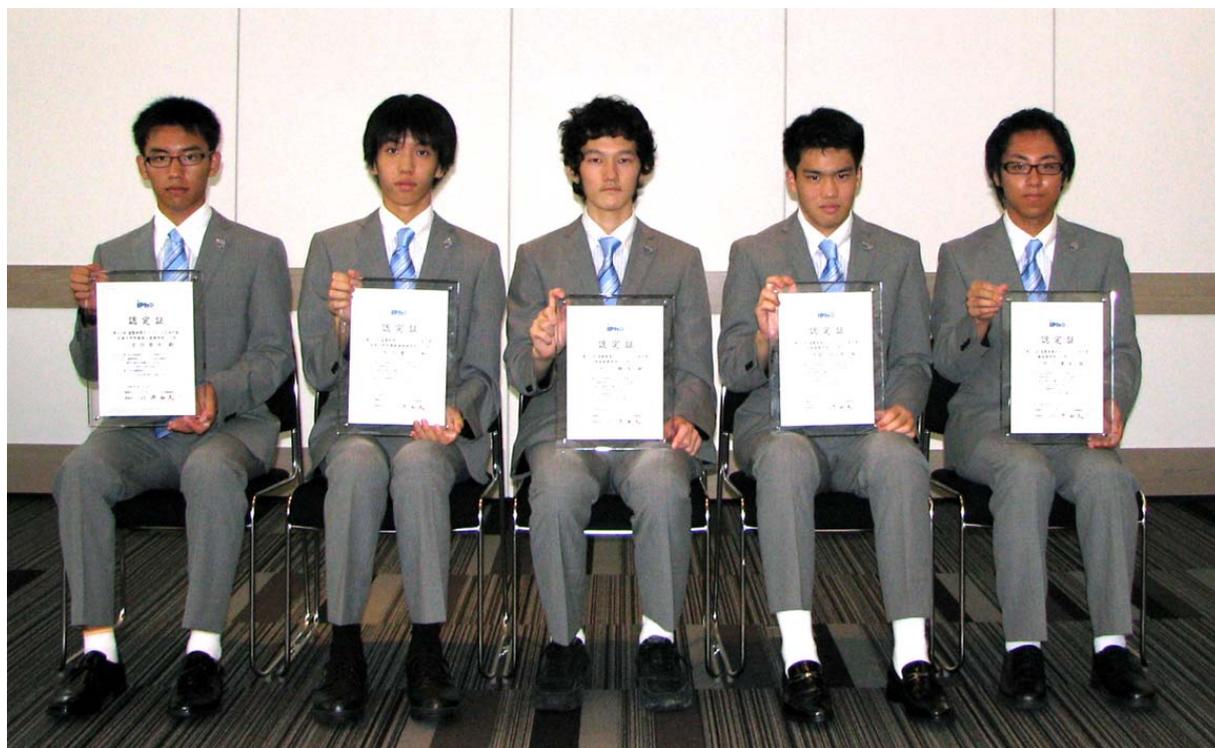
今回のオリンピックで出された試験問題

理論問題は、ベトナムの文化・世情を反映しており、「水力式米つき機の関する問題」、「排気ガスによる汚染の循環に関する問題」、そして純粋に物理の問題として「チェレンコフ放射に関する問題」が出された。また、実験問題は、結晶の凝固点の測定と太陽電池の発電に関する問題で、理論に比べ素直な問題といえるものであった。

エクスカッションなど試験以外の大会プログラム

試験の合間には、ハーロンベイ（世界遺産）への遠足や水上の人形ショー等が組み込まれ、その間世界中の多くの友達との交流が行われた。日本チームは、白地図を使って多くの国の生徒と楽しく交流した。また、6日目にはノーベル賞受賞者のフリードマン教授の講演もあり、日本代表の生徒も自分の将来に思いをはせた。

日本代表 （日本代表団結団式 2008年7月19日撮影）



写真左から 吉田周平、松元叡一、松久勝彦、赤堀将太郎、村下湧音

「国際物理オリンピック (International Physics Olympiad)」について

(<http://www.jyu.fi/tdk/kastdk/olympiads/>)

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、参加国における物理教育が国際的な交流を通じて一層発展することを目的としている。科学・技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、次代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性に鑑み、開催国を持ちまわりとして毎年開催されている。国際大会の参加資格は、20歳未満で且つ大学などの高等教育を受けていないこと。

各国内で選抜された最大5名の代表選手たちが、リーダーやオブザーバーからなる引率役員とともに参加する。10日間という長い会期のあいだ、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に根ざした様々なイベントに参加することを通じて、ほかの国々からの参加者や主催者と国際的な交流を深めることができるように構成されている。

近年の開催国/都市は、2004年韓国/浦項、2005年スペイン/サラマンカ、2006年シンガポール、2007年イラン/イスファハン。参加国数は増加傾向にあり、ベトナム大会には、82カ国・地域から370名の各国代表が参加した。2009年はメキシコ/メリダで開催される。



「第37回国際物理オリンピック」派遣概要

- 会 期： 2006年7月8～17日 10日間
- 開 催 地： シンガポール共和国
- 共催機関： シンガポール教育省 国立シンガポール大学 南洋工科大学
シンガポール国立教育研究所 シンガポール物理学会
- 参 加 国： 93カ国・地域 (398名)
- 日本代表： 5名 (高等学校1年生1名、3年生4名)
- 受賞成績： 銀メダル1名 銅メダル3名 入賞1名
- ※ 銀メダル受賞者は初参加国中トップ成績として大会会長賞も受賞

「第38回国際物理オリンピック」派遣概要

- 会 期： 2007年7月13～22日 10日間
- 開 催 地： イラン・イスラム共和国
- 参 加 国： 69カ国・地域 (327名)
- 日本代表： 5名 (高等学校2年生1名、3年生4名)
- 受賞成績： 金メダル2名 銀メダル2名 銅メダル1名



日本国内の物理コンテスト「物理チャレンジ」について

(<http://www.phys-challenge.jp/>)

「物理チャレンジ」は、大学等に入学する前の青少年を対象として物理の持つ面白さと楽しさを体験してもらうことを目的とする全国規模のコンテストで、国際物理オリンピック日本代表選考を兼ねている。

「物理チャレンジ」は、ふたつの段階から構成されており、はじめの「第1チャレンジ」は、「理論問題コンテスト」と「実験課題レポート」からなる。理論問題コンテストは全国一斉の会場試験、実験課題レポートは自宅や学校で課題実験に取り組みその結果をレポートにまとめ、郵送で提出する。

二段階目の「第2チャレンジ」は、第1チャレンジにより選抜された100名が、夏休みに一堂に会する3泊4日の合宿形式のコンテスト。理論問題と実験問題についてそれぞれ5時間の試験を実施する。ここでは成績上位6名に金賞、続く12名に銀賞、続く12名に銅賞、さらに続く約20名に優良賞等を授与する。

第2チャレンジで優秀な成績をおさめた参加者から、翌年の国際物理オリンピックに派遣する日本代表候補を10～15名程度選出し、5ヶ月間にわたる通信添削、大学等を会場とした実験実習、冬休み及び春休みの合宿研修等の教育研修を実施したのち最終選考を行い、5名の日本代表を決定する。

なお、第2チャレンジの期間中には、国際大会に倣いコンテストばかりでなく、合宿形式のメリットを活かし第一線研究者との対話、最先端研究施設の見学、そして参加者同士ならびに参加者と主催委員（物理学研究者）との交流を深める機会なども織り込んであり、物理に興味を持つ若者にとって充実した4日間となる構成としている。

第1回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2005」開催概要

会 期：2005年8月12～15日（第2チャレンジ）

会 場：岡山県青少年教育センター閑谷学校

共同主催：世界物理年日本委員会 社団法人日本物理学会 社団法人応用物理学会
日本物理教育学会 岡山県・岡山光量子科学研究所

特別協賛：独立行政法人科学技術振興機構

参加者：（第1チャレンジ） 282名
（第2チャレンジ） 100名



第2回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2006」開催概要

会 期：2006年7月30日～8月2日（第2チャレンジ）

会 場：岡山県青少年教育センター閑谷学校

主 催：物理チャレンジ組織委員会

共 催：社団法人日本物理学会 社団法人応用物理学会 日本物理教育学会
日本生物物理学会 社団法人電気学会 岡山県・岡山光量子科学研究所
独立行政法人理化学研究所 財団法人日本科学技術振興財団

特別協賛：独立行政法人科学技術振興機構

参加者数：（第1チャレンジ） 470名
（第2チャレンジ） 99名



第3回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2007」開催概要

会 期：2007年7月29日～8月2日（第2チャレンジ）
会 場：筑波大学及びつくば研究学園都市ほか茨城県内研究施設
主 催：物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
共 催：筑波大学 日本物理学会 応用物理学会 日本物理教育学会
日本生物物理学会 電気学会 日本機械学会 茨城県 茨城県教育委員会
つくば市 つくば科学万博記念財団 筑波研究学園都市交流協議会
筑波研修センター 茨城大学 東京工科大学 岡山県
参加者数：（第1チャレンジ） 424名
（第2チャレンジ） 98名

今年開催の第4回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2008」概要

主 催：物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
共 催：日本物理学会 応用物理学会 日本物理教育学会 日本生物物理学会
電気学会 日本機械学会 岡山県 岡山光量子科学研究所 岡山大学
倉敷市 茨城県 筑波大学 理化学研究所 日本科学技術振興財団
特別協賛：科学技術振興機構
協 賛：東レ 日立製作所 NTT 東京電力 東芝 松下電器産業 三菱重工業 三菱電機
半導体エネルギー研究所 アジレント・テクノロジー 茗溪会 Z会
助 成：東京倶楽部
協 力：国立天文台 岡山天文博物館 科学振興仁科財団（仁科会館） 仁科記念財団
岩波書店 シュプリンガー・ジャパン 丸善 カルビー・アメリカ はるやま商事
後 援：文部科学省 岡山県教育委員会
朝日新聞社 日本経済新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 NHK

- 「第1チャレンジ」 応募者 769名
実験課題レポート 提出者 649名（平成20年6月2日提出締切）
理論問題コンテスト 参加者 653名（平成20年6月15日全国67会場で実施）
- 「第2チャレンジ」 ※ 第1チャレンジから選抜された106名が参加予定
会 期：平成20年8月3～6日（3泊4日）
開催地：岡山県岡山市及び倉敷市ほか
内 容：理論及び実験問題（各5時間）、特別講話、研究施設見学、交流イベントなど
表 彰：金賞（6名）、銀賞（12名）、銅賞（12名）及び優良賞（約20名）など

以上